令和７年度第１回新潟県食品ロス削減推進協議会　議事要旨

開催日時：令和７年 11 月 25 日（火）午前９時 30 分から 11 時 30 分まで
開催場所：新潟県自治会館別館３階第１研修室
出席委員：長谷川会長、田村委員、樋熊委員、山﨑委員、堀内委員

議事（１）会長の選任について
○　委員の互選により長谷川委員を選出

議事（２）食品ロス削減をめぐる国の動きについて
○　事務局から資料に基づき説明

議事（３）新潟県の現状と課題について
○　事務局から資料に基づき説明

議事（４）計画改定に向けた検討について
・食品ロス削減推進計画改定（素案）の協議について
○　事務局から資料に基づき説明
○　委員による協議
【主な意見】
・　「問題を認知して複数の取組を実践する県民の割合を９割以上とする」という目標については、現状（令和６年度調査）が 72.4％と、前回調査（令和元年度：81.0％）から下回っているものの、当初計画の目標を維持することが適当である。
・　令和３年度のアンケートにおいて、県民が実践する取組として貢献していた「残さず食べる」の項目がないと目標９割は厳しいような気がするが、下方修正はなかなか難しい。

議事（５）その他
○　事務局から食品ロス削減に向けた県の取組（資料配布）
○　事務局から計画改定に向けたスケジュールについて説明
○　委員から団体及び業界の取組について説明・意見交換
【主な取組内容・意見】
・　にいがた食と農の加工連携事業協同組合では、生産者・加工業者・販売者が一体となって農業の６次産業化に取り組み、規格外の農産物（例：いちご、枝豆、洋梨、里芋の親芋等）を使った商品開発・販売を行っている。今後も規格

外ということで廃棄されてしまうような食材を原料とした商品化に取り組んでいきたい。

・　小売業では、規格外品の販売、季節商品の予約販売、賞味期限・消費期限の延長、食品廃棄物のリサイクル（家畜飼料・肥料化）、ばら売り・少量パックでの販売等に取り組んでいる。予約販売については需要予測の精度が向上してきている。おつとめ品（見切り品）の購入や「てまえどり」が消費者に浸透してきていると感じる。冷凍商品について、賞味期限が長い、味が良くなっている、簡単に作れるといった理由から大きく伸びている。

・　消費者協会では、食品ロス削減を含むエシカル消費の推進に取り組んでおり、今年からは「食」を共通テーマに、各支部で講演会や勉強会を開催。会員向けに発行している情報誌「カラビナ」では「mottECO（モッテコ）」について紹介。ユニゾンプラザや市役所などにも設置し、一般市民の方にも目に留まるようにしている。

・　新潟市では令和６年度に一般廃棄物処理基本計画を改定した。食品ロス量の削減目標については、人口減少を踏まえたごみ排出量の推計と組成調査を基に設定した。